

ミルキーホーム南大泉園 I & II が 日経新聞の5月24日号に掲載されました

生活



保育所にデジタルの波 見送りロボや連絡帳アプリ

保育所のICT(情報通信技術)化が進んでいる。登降園管理や連絡帳の記載などに活用する例が多い。煩雑な業務を機械に任せることで、保育士の負担軽減や保育の質向上をめざす。ただ、機械化への抵抗を感じる保育所もあり、普及を阻む要因になっている。

「サヨナラちゃん」
今日はカレイのマヨ焼きと野菜チップスを食べたね」
認可保育所「あい・あい(保育園東池袋園) (東京・豊島) の玄関で、保育ロボット「VEVO(ビーボ)」が一人ひとり声を掛けて見送る。保育事業のグローバルプリンテアホールディングスの子会社が開発し、昨夏、導入した。

見送りだけでなく、全員に登降園時刻を記録し延長保育料を計算する。これまでは保育士が手書きで記録を付け計算していたが、その手間が省ける。施設長の高山京子さんは「事務処理が大幅に減った」と喜ぶ。月200時間以上の削減効果があったという。

食事や昼寝、体調なども記録する。1歳児の母親(30)は「給食の内容や睡眠時間がわかるので、夕食の献立や就寝時間の参考に。ビーボが来てから子供が保育園に行きたがるようになった」と笑う。

保育士が最も神経を使う

のが、突然死が起りやすい屋中の見守りだ。そんな小規模保育所のミルキーホーム南大泉II(東京・練馬)は4月、ソフトバンクの子会社、humo(ハグモ)・東京・港)の見守りサービスを導入した。マ

ット型センサーで呼吸や心拍数、けいれんの有無を検知し、伝送する。異常があれば警告音などで知らせる仕組みだ。

園長の木村綾妻さんは「二重のチェックができるので保育士の精神負担が軽くなった」と話す。1歳児を預ける看護師の女性(30)は「安心感が全然違う」と歓迎する。

園長(茨城県鹿嶋市)で

は、手書きの連絡帳をやめ、スマートフォン(スマホ)のアプリを使う。スマホは空き時間に簡単に入力でき、園の様子を撮った写真も添付できる。親は一目で様子がわかる。保育士も逐一報告しなくて済み、業務効率が上がる。

普及を後押しするため、厚生労働省は2015年度の補正予算で148億円を計上。社会福祉法人や株式会社など民間が運営する認可保育所のうち、4割強にあたる約700カ所が導入した。

ただ、補助金が出るから可保育所のうち、4割強にあたる約700カ所が導入した。

「ビーボ」にペンダントをかざせば、登降園時刻が記録される(東京都豊島区の「あい・あい保育園東池袋園」)

と導入したものの、活用されないまま「宝の持ち腐れ」の園もあるようだ。ウェブサイトの保育園支店ナビを運営するウエルクス(東京・台東)が17年に保育士や園長に聞いた調査で、ICTが役立つかを尋ねたところ、「役立つ」が30%、「役立つ」が30%だった。役立つという理由の上位は「手が空いた時に作業がしにくい」「入力作業が慣れない」「端末の数が少ない」だった。

端末に不慣れた年配の園長や保育士が多い園は敬遠する傾向が強い。まっやま

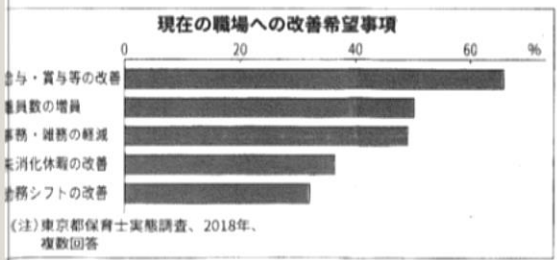
効率重視に抵抗の声も

大宮保育園の松山圭一郎園長(40)も「当初反対された」と苦笑する。特にベテランの抵抗が強かった。地道に説得し、軌道に乗るまでに1年近くかかった。

全国私立保育園連盟の関係者は「アナログの世界にデジタルはなじまないと思う園長は多い。手間イコール愛情という考えは根深くある」と打ち明ける。

保育園を考える親の世代の普及率を比べると「保育士の負担を軽減するICTはもっと活用すべきだ。削減した時間を本来の保育業務に充てられる」と話す。保育の質が問われるいま、機械化は有力な選択肢となっている。

働き手確保へ環境改善急ぐ



保育所がICT化を進める背景には、少しでも労働環境を改善して保育士を確保したい思惑がある。

保育士は超売り手市場。保育士1人にとりくらの施設が求人を出すかを示す有効求人倍率は、2018年度のピークで3.64。1人に対し4カ所弱の施設が求人したことになる。14年度の2.18から4年で1.46倍も上がった。

保育士の意識はどうか。東京都が昨夏実施した保育士実態調査によると、職場への改善希望事項は給与・賞与の改善が最も多く、職員数の増員、業務・雑務の軽減が続く。やはり人員増や業務の効率化で負担を減らしてほしいというのが本音のようだ。